

市議会広報広聴委員会視察報告書

【視 察 日】 令和5年10月18日（水）～19日（木）

【視察委員】 川島美希子委員長、山本信行副委員長、さとうまりこ委員、大石心平委員、
藪崎正幸委員、山川智己委員、平井登委員

【視 察 先】 （1）石川県加賀市 （2）石川県白山市

【調査事項】 令和5年10月18日（水）石川県加賀市
議会活性化特別委員会での取り組み、議会だより及び意見交換会等について

①市の概要

石川県の最南端、金沢市と福井市の中間に位置する。「加賀温泉郷」と言われる山代、山中、片山津の3つの温泉地、九谷焼・山中漆器などの伝統工芸、日本遺産に登録されている北前船など観光資源が豊富な市である。

面積 305.87k m²、人口 （2023.10.1 現在）62,720 人

②取り組みの経緯・内容

平成23年に議会基本条例を施行。開かれた議会、市民が参加する議会、政策提案する議会等を骨子とし、具体的な取り組みを明文化した。2022年には議会改革度調査全国4位となる。

「議会だより」は、議会モニター員の改善提案を受け、増ページ、フルカラー仕様へとグレードアップ。また、1問につき360文字の限られた中で「議員のひとこと」を追加するなど見やすさとともに内容の充実や議員個々の意見反映が図られている。

さらに、女性議会やお出かけ教室等、住民参加型グループトーク方式の導入を精力的に実施し政策提案や委員会、一般質問などに活かし、提言も積極的に行われている。

また、SNSの活用による情報発信を強化し、YouTubeを利用しての議会の発信も主に若年層をターゲットとして行なっている。

③今後の課題

さまざまな条例の策定、市政への提言など活発な活動が行われているが、アンケート結果では市民の議会への関心は下がっているという厳しい結果。何もしなければもっと大きく下がっていたということではあるだろうが、依然として市民の関心の低下を食い止めきれずにいる。どうしたら読みたいと思ってもらえるのかを検討すること、また若者に政治に関心を持ってもらうための努力と工夫が必要。

④本市に反映できると思われる点

毎回異なる特集記事などを掲載し、市民が興味を持ち、分かりやすいと感じる工夫が必要。また、各種市民参加の議会として、議員が各所に取材に行き、市民の願いを直接聞き取ること、委員会別の団体との意見交換など、広聴にも力を入れる事が重要。

学校の授業、放課後に行っているお出かけ教室をすることは、数年後投票率の向上につながると思うので取り組んでいけたらと思う。



【調査事項】 令和5年10月19日（木） 石川県白山市
議会だより及び議会報告・意見交換会等について

①市の概要

白山市は、県都金沢市の南西部に位置する。白山国立公園や、県内最大の流域を誇る一級河川手取川、白砂青松の日本海など、山・川・海の豊かな自然に恵まれた地域であり、海岸部から山間部まで、およそ 2,700m の標高差がある。

面積 754.92k m²、人口 （2023.9.30 現在）112,679 人

②取り組みの経緯・内容

「市民の知りたいことと、議会が伝えたいことは違う」という結論の元、議会だよりは市政に興味がない人に少しでも興味を持ってもらうため、「見やすさ重視」、「市民の意見を掲載する」等まずは手に取ってもらえるよう、2色刷りから全ページフルカラー、ユニバーサルデザイン（文字を少なくし、余白を広く、写真やイラストを増やす）等紙面のリニューアルを行った。一般質問のコーナーは問・答を合わせて 72 文字へ変更したが、議員からの反対意見はなかった。

年配の方は既に読んでいただけているので、あえて若年層にアプローチすることを常に考えている。

市民の声なき声、声になっていない思いをくみ取るために公聴機能を大幅に強化することを決め、「広報部会：市議会だよりの編集発行」と「公聴部会：議会報告会・意見交換会の実施」にわけ公聴部会として3名増員し、委員会として9人体制となった。さらに、意見交換会の回数を増やし、特に重要な意見は、検討し政策提言につなぐ。

③今後の課題

情報発信の方法として今後は web 媒体へシフトしていかなければならないので、議会だよりを広報白山の一番後ろに 1 枚記事に変更することを検討している。

また、意見交換会に関してはやはり若年層の参加が少ない事、選挙権が 18 歳に引き下げられた事も有り、これからは高校生へのアプローチが重要である。

④本市に反映できると思われる点

どの様にしたら市民に読んでもらえるか、手に取ってもらえるかを考え、ページ数削減やユニバーサルデザインへの変更等もっと積極的に行なう必要がある。

市民の意見や目線を掲載していく事は、議会を身近に感じてもらうことにつながるため、意見交換会は回数や対象者を増やすこともしていくべきと感じた。

最も学ぶべきは「まずはやってみる」そしてだめであれば元に戻す等といった事を恐れないという姿勢で取り組む事である。

